

鑑賞 「絵巻『鳥獣人物戯画』をみる」

小学校高学年 全2時間

授業のポイント：拡大コピーした絵巻「鳥獣人物戯画」を床いっぱいに広げ鑑賞する。「右から左へ」というみ方の情報を提供することで、新たな発見をさせながら絵巻をみる楽しさを味わわせる。

指導計画 第一次 絵巻「鳥獣人物戯画」をみる（2時間）

絵巻の鑑賞

4大絵巻のうち1つである「鳥獣人物戯画」を使って、絵巻物の鑑賞を行います。「鳥獣人物戯画」は、甲巻・乙巻・丙巻・丁巻の4巻からなる絵巻です。今回とりあげるのは、兎や蛙の相撲の絵で親しまれている甲巻ですが、制作年代は12世紀後半であると推定されています。

絵巻は、周知のように著しく横に長い画面をもつことが他の掛け軸や屏風・襖などときわだった違いをみせる画面形式です。そのために、画面は、「右から左」へ時間的・空間的に展開していくのです。我々先祖の視線は、「右から左」を基本にしていたわけですが、「左から右書き」する現代の我々にとっては、少し異様に感じられます。「右から左」という絵巻の基本的な鑑賞方法を知らせながら、絵巻に親しませていきたいと考えます。

写真1．拡大コピーした
「鳥獣人物戯画」を
広げての鑑賞



大きな絵巻「鳥獣人物戯画」を体育館の床に再現し全員で鑑賞する

絵巻「鳥獣人物戯画」の実際の大きさは、 $30.4\text{ cm} \times 1148\text{ cm}$ である。
この絵巻を拡大コピーして学習をします。その主な理由は、

- 大きな絵巻ということで、子どもたちにインパクトを与えることができる。
そのことで、学習への意欲を高めることができる。
- 全員で一度に鑑賞することができ、子どもたちのやりとりが活発になる。

からです。拡大コピー機を使って、大型絵巻を完成させました。

「右から左へ」というみ方の情報を提供することで絵巻をみる楽しさを実感させる

次の場面は甲巻の「兎と蛙の相撲の場面」です。この場面は、右から左へとみていくとたいへんおもしろい場面です。兎の急所である耳をかんだ蛙が、とうとう兎を投げ飛ばし、それをみていた蛙の仲間はお腹をかかえて笑っています。楽しい笑い声が聞こえてきそうです。この場面は、二組の蛙と兎が相撲をしているようにもみえますが、右から左へと連続してみていくとアニメをみているようです。



日本の美をめぐる 15「アニメのはじまり鳥獣人物戯画」 小学館より

このように、絵巻は、「右から左へ」とみていくことで、その絵巻に描かれている物語の展開が鮮明になりその意味を感じながら楽しくみることができます。授業では、このみ方を情報として提供し、みんなで楽しく鑑賞していきたいと思います。

授業の実際

鳥獣人物戯画の紹介

授業の導入場面では、鳥獣人物戯画（甲巻）の最初の場面「兎や猿の水遊び」の場面を短冊状に分割したものを並び替えさせました。このパズル遊びを通して、興味・関心を高め、動物たちが楽しく描かれている絵巻への世界へ誘っていきました。



この後、絵巻「鳥獣人物戯画」の一部であること、制作年代などを知らせ、大型絵巻でこの鑑賞作品をみんなでみていくことを提案しました。

自由に鑑賞をする

早速、大型絵巻を体育館の床一面に広げ自由にみていきました。子どもたちは、大きな絵巻のために、すぐに引き込まれていきました。弓を射る場面やお相撲をとる場面などに興味をもちながら友だちと楽しくみていました。



写真2．右から左へというみ方に気づかせる



自由に鑑賞した後、「兎と蛙の相撲の場面」に焦点を当てて、どのような場面なのか考えていきました。

最初に、この場面には、相撲をしている兎と蛙は、何組かいるか尋ねてみました「二組だね?」という大半の子どもたちが。「どうしてそんなことを質問するのだろうか。」という目を向けます。そこで、絵巻の基本的な鑑賞の仕方は、巻物を開いては丸め、開いては丸めていきますが、それを子どもたちの前で実演してみせました。そうすると、「もしかして、パラパラ漫画のようにこの場面はつながっているのではないか。」「兎と蛙が組んでいて、蛙が兎を投げ飛ばした場面だよ。」という反応が返ってきました。

これはおもしろいということになり、絵巻は「右から左」とみていくとそこにお話がうかびあがってくることを知らせ、そういったみ方で、もう一度みていくことにしました。

写真3．新たに発見した
ことを付箋に書き込みその場面に貼っていく



子どもたちには、「右から左へ」というみ方をしたとき、分かったことを黄色い付箋用紙に書いていきました。はってある紙を他の子どもたちが読めるように大きな付箋用紙にしました。「右から左へ」ということを話題に学級が交流していきました。



写真4．たくさんの付箋
が貼られた場面



うさぎがダイビングをして、水に流されながら、岸にたどりついたようにみえるよ。

下のうさぎとさるが用意ドンをして、泳ぎの競争をしているようにみえるよ。

写真5．視覚をせばめて



「右から左へ」というみかたを知ったこの子どもは、このように視覚をせばめて、パラパラ漫画にみえるところをさがしています。この後、多くの発見をしたようです。

昔の新聞記事を

授業の終わりには、昭和20年代の新聞の横書きの見出しと今の新聞の横書き使ってきた見出しを比較しながら、つい最近まで、「右から左へ」というみ方或いは書き方が一般的であったことを告げました。鳥獣人物戯画をみていた人が、現代の左から右へという横書きの書物をみたら、どんなにか驚くことでしょう。

「平和への伝言」あけび書房より

子どもたちの感想

ほとんどの動物が、うさぎやかえるきつねなどだった。うさぎとかえるがすもうをしたり追いかっこみたいことをしたりして楽しそうだった。うさぎが鼻をつまんで泳ごうとしたりおぼうさんみたいなかえるがいたり動物が本物の人間みたいなことをしたりしていたのがおもしろかった。この「鳥獣人物戯画」が本物だったら今にも動いたりしゃべったり笑ったりしそうだと思いました。

動物が人間がやるようなことをふつうに生活していて人間よりおもしろそうに生活していたので楽しかった。とちゅうで、〇〇さんが言ったように、パラパラまんがみたいになっていたのが発見できてよかった。授業のはじめのみかたと最後のみかたとは、ぜんぜん違いました。でも、両方楽しかったので、2回のみかたで2回楽しめました。

この鳥獣人物戯画をみて思ったのは、例えば、今の新聞は、左から右へだけど、この絵巻は、右から左へみていっていることが分かった。うさぎとかえるがおすもうをとっている場面は、最初、三匹の動物がいるのかなと思ったら、右から左へ行ってみたら、「とととととと動いているようにみえた。